

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	直轄治山環境整備事業	会計	一般会計	事業No.	436	施策順No.	51-003
		事業種別	政策・その他	予算科目	6-2-2-25-1		
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	林務課		
施策	51 自然の保全			事業期間	開始	13	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	林道松川入線 直轄治山事業区域内の民有林						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		直轄治山環境整備事業計画延長(m)	1400	1400	1400	1400	1400	
	意図	林道松川入線を改良することにより、森林荒廃地の早期復旧による公益的機能の回復を図る 民有林直轄治山事業の推進						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	林道改良実施済延長/改良計画延長(%) H21まで1110m、H22は97m、(1,110+97)/1,400=86.2%	67.4	75.9	79.3	82.9	86.2	86.3	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	目標に対し十分な成果が図られた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	飯田市の重要水源で森林資源が豊富な松川入地区について、国が進めている民有林直轄治山事業を円滑に行うため、唯一の進入路である林道松川入線が重要であり、通行量の増大に伴い、危険箇所や崩落箇所等改良の必要がある箇所について、早急に対策を講じるため関連改良工事を実施する		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	林道松川入線改良工事 丸太積工・法面保護工	施工延長	L=97m
23年度実施計画	林道松川入線改良工事 丸太積工・法面保護工	施工延長	L=48m

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
	一般財源		2,604	2,604	2,544	
計(A)		2,604	2,604	2,544		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)				0		
トータルコスト A+B			2,604			

4 事業に対する市民や議会の意見

飯田市の水源である松川入地区の森林保全に関心が高く、森林所有者のみならず、市民や直轄治山事業の推進に寄与するため伊那谷総合治山事務所から要望がある。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	施策の成果指標又はムトス指標	内容
		森林面積 崩壊地の面積	保全、再生される。
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り		4年間でL=401を実施し、国が進める直轄治山事業に関係する通行車両の安全を確保した。
	後期に向けた課題		未整備地も多く、治山事業の支障となる箇所については、引続き整備が必要である。
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り		現地踏査により、より優先度の高い箇所より事業を実施した。
	後期に向けた課題		未整備箇所の改良工事に取組むことにより、治山工事の効率を向上させる。
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り		工法の検討・効率的な事業の実施。
	後期に向けた課題		工法の検討・効率的な事業を実施していく
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り		林道の整備であり管理者として飯田市が実施する。また、直轄治山工事の受益者を飯田市である。
	後期に向けた課題		松川入地区の治山工事の効率化のため、引続き飯田市として実施していく。
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り		①林道の管理者として、通行車両の安全を確保するため事業を実施した。 ②林道管理者としての安全確保と利便性の向上。
	後期に向けた課題		①林道の管理者として、通行車両の安全を確保するため事業を実施する。 ②林道管理者としての安全確保と利便性の向上させる。
全体を通じて	4年間の振り返り		飯田市の水瓶である松川入地区の直轄治山事業の推進のために唯一の進入路である林道松川入線の整備を実施し、同事業の効率化を図れた。
	後期に向けた課題		未整備地の中でも現地踏査を実施し、優先順位の高い箇所から工法等を検討し事業を進めることが必要。

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------